



筑紫女学園大学リポジト

新疆ウイグル自治区の教育現状

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-02-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 崔, 淑芬, CUI, Shufen メールアドレス: 所属:
URL	https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/258

新疆ウイグル自治区の教育現状

崔 淑 芬

THE EDUCATIONAL EVOLUTION & PRESENT SITUATION IN XINGJIANG

Shufen CUI

はじめに

古代、「西域」と呼ばれているシルクロードの重要な通路である新疆ウイグル自治区は、中国の北西辺境、ユーラシア大陸の後背地に位置しており、面積は166万4,900平方キロメートル、中国全土面積の六分の一を占めている。総人口は1,925万人、漢族の他に、主にウイグル・カザフ・蒙古・回・キルギス・シボ・満州・タジク・ダオール・タタール・ロシア・ウズベク等12の民族が集まっている、「世界の民族博物館」と言われている。漢代、新疆は西域都護府に属し、唐代に入ると、北庭・安西二都護府を設置され、宋代は西遼の地になり、清光緒十年（1884年）、正式に新疆省を設立した。この古代の東・西方の経済・文化交流の中枢としての新疆は、古代から多くの宗教の並存地区になった。現在、主にイスラム教・仏教・キリスト教・カトリック教・道教などが信仰されている。シャーマニズムも、一部の民族の中で依然としてわりに大きな影響力をもっている。このように独特な歴史・文化を持っている民族地域では、今日において、その社会の土台となっている教育はどうなっているのか。その教育は宗教や社会との関係などの実情を究明するため、筆者は二回にわたって現地調査を行った。小・中学校から新疆大学、民族教員の養成機関としての教育学院大学までの教育現状を調べた。授業を参観し、学生たちの生活に関する食堂や学生の寮を見学すると共に、家庭訪問や、先生たちの控え室・研究室なども訪れ、学校の責任者、先生、学生及び親と面談した。

調査の中で、少数民族の教育は80年代以後、著しく発展したことは事実であるが、辺境地、山間地、また遊牧民族の教育、特に、基礎教育である小・中学校の教育を普及、強化させることは依然厳しいかつ緊急な任務であることを痛感した。

少数民族の教育に対する研究の視点や教育の分類、地域的な分布など、その視点はとても幅広いが、本論は、現場調査で獲得した多くのデータ・資料から、喀什・和田・克孜勒蘇など地域の「二言語教育」の実施及び教員を養成する場所である教育学院大学を取り上げ、新疆の教育現状、在り方を透視しようという試みである。

一. 「二言語教育」の実施と教員の不足

少数民族に、自民族の言語文字を使用し、発展させる自由と権利は十分に尊重、保障されている。1988年と1993年に、自治区政府はそれぞれ「新疆ウイグル自治区民族言語使用管理暫定規定」と「新疆ウイグル自治区言語文字工作条例」^(注1)を公布し、少数民族が自民族の言語文字を使用する自由と権利を法律面から保障している。司法、行政、教育などの分野でも、また政治、社会生活の中でも、少数民族の言語文字は広く使われている。自治区の機関は公務を執行する時、二種以上の言語文字を同時に使用し、各自治州、自治県の機関は公務を執行する時も、同時に民族の言語文字を使用している。少数民族は自民族の言語文字を使って選挙、訴訟する権利がある。

現在、多民族である新疆の言語文字は、先ず、漢語は共通用言語になっており、それ以外にウイグル語・カザフ語・蒙古語・キルギス語などがある。それらは自治区人民代表大会の正式な言語になっており、ラジオ放送もその五つの言語で放送し、テレビはウイグル・漢・カザフの三つの言語を使っている。また、図書、雑誌の出版は以上の五つ言語のほかに、シボ族の言語を加え、六つの言語で行われている。これらの多数の民族言語工作に関わる機構、各種の民族言語の専門的人材の養成、一定規模を持つ民族言語工作者チームをつくることは、新疆地域の教育において最も重要な一政策となっている。

少数民族の言語を保護すると共に、統一言語、漢語の普及も重要な一環となっています。新疆の言語教育に対して、中国の教育部（日本の文部科学省に相当）国家民族事務委員会は「中・小学校の場合は本民族語と漢語を並行して授業を行うべき」、「主として少数民族の学生を募集する学校は、条件が整えば少数民族の文字による教科書を使用し、少数民族の言語で授業を行い、適切な学年から漢語の課程を増設して二言語教育を施し、全国に通用する普通語を普及させるべきである」と定めた^(注2)。この指示に基づいて、1980年、新疆ウイグル自治区教育庁は漢語の授業要綱をつくり、小・中学校の漢語教科書を編纂した。1981年から正式に「小学校四年生から高校まで漢語の授業を開講、生徒に一万字程度の漢字と三千五百程度の単語・熟語・諺を習得させるように」と決め、頒布した。

新疆ウイグルの小・中学校の民族語・漢語の週間授業時数

科 目	小 学 校					中 学 校						11年間の総数	
	1	2	3	4	5	5年間の総数	1	2	3	4	5	6	
民族語	12	12	11	8	8	1,836	6	6	6	4	4	4	996
漢 語				4	4	288	4	4	4	4	4	4	792
全 教 科	26	26	27	30	30	5,004	31	32	30	30	29	31	6,058
													11,062

『中国少数民族語言使用状況』中国藏学出版社 1994年に基づく

表のように、小学生は主に民族語を学び、四年生から週に四時数で漢語を学習するが、中学校から6年間で週に四時数の漢語を勉強しなければならない。

筆者は、この「二言語教育」の実施現状を調査するため新疆西南部に位置している喀什・克孜勒

蘇，和田など「三地州」と呼ばれている貧困地区（以下「三州」という）の小・中学校へ行った。

「三州」はいずれにしても南新疆に位置している。ウルムチから列車で天山山脈を超えて、先ず、喀什に着いた。喀什は古代シルクロードの重要な通路の一ヵ所であった。今は南疆西部の工業、畜牧行業の中心地になっている。典型的な大陸気候で、昼夜の温度差は10度以上、地元の方は「朝は毛皮の上着、昼は夏の服装」と言った。克孜勒蘇は南疆の「果物の郷」と呼ばれ、町の至るところで無花果や葡萄・杏・ザクロを売っている。特に「無花果」という果物は栄養価が高いため、地元はそれを「仙人果」とよんでいる。町の周辺では果樹園が彼方此方にある。一方、克孜勒蘇は新疆のイスラム教の発祥地と言われている。十世紀頃、カラカン王朝の国王が初めてイスラム教を新疆に受け入れ、ムスリム聖地を創った。また、仏教に関する遺跡、断崖に掘られた三つの石窟があり、それぞれの高さは二メートル、幅一メートルあまり、中には時代によって異なる壁画、いきいきした七十体あまりの塑像が置かれている。その体態、服装の特徴から、早く漢代に仏教の伝来と共につくられ、それらは1,800年以上の歴史を持ち、中国の西部において最も古い石窟ではないかと考古者に推定され、仏教史の研究至宝というだけではなく、美術史・宗教史・風俗史などの貴重な資料でもある。

和田はタクラマカン砂漠の南、和田川沿いにある。自然資源が豊富で、石油・石炭・鉄・玉石など120種あまりが発見され、また、仏寺や古城の遺跡が沢山残っており、中で最も有名なのは尼雅・楼蘭である。民豊県の北にある尼雅の古城は土木で建築した住居・于闐古文字の木簡・羊皮文献があり、また、楼蘭古城のミイラなどもあり、これらはかなり保存状態がよく、南新疆の歴史を研究するのに貴重な資料となっている。

「三州」の人口は505万人余り、そのうちウイグル族は465万人で最も多かった。次が漢・キルギス・タジク・ウズベク・カザフと回族などである。

「三州」の小・中学校の生徒数は113万人、うち少数民族の生徒人数は108万人で、在校生総数の95.6%を占めている。教員の状態については、喀什地区を例としてそれを見れば、小・中・高等学校の専任教員は3万6人であり、内訳は小学校が1万8,642人、中学校9,867人、高校1,497人になっているが、民族別に見ると人数の多い上位3位はウイグル・カザフ・漢民族である。ウイグル族出身の教員は小学校1万6,742人、中学校8,899人、高校が1,092人である。その次がカザフの出身で小学校12人、中学校7人、高校はゼロとなっている。漢族の場合は小学校1,526人、中学校819人、高校372人となっている。喀什地区の教育局長の話によると「八十年代まではウイグル語は地域の共通語になっていた。単一民族語による学校教育では民族語をちゃんと残したが、他民族との交流は封鎖の状況であった。これにより生徒たちは他地区や沿海地域の大学進学にとても無理となり、人材の養成には大変不利であった。しかし八十年代以後、特に改革開放において『二言語』教育、つまりウイグル語と漢語を並行させるために、小学校3年生から高校卒業まで漢語の授業を受けなければならなかった。しかし漢語の教員がとても足りず、その解決のため高校卒業生に大学の漢語専門の入学をするように勧めて、大変苦労した」と笑いながら語ってくれた。「今、三州の漢語教員は5千人を超え、学校の漢語環境もやっと整ってきてる」という。

筆者は喀什郊外の小学校へ調査に行った。校長は若いウイグル族出身の女性で、忙しいなかを接待して下さった。「私の名前は尼亞孜古麗といい、ウイグル族人は父親の名前を苗字として使い、普段は名前しか使わない」と明るく話を始めた。尼亞孜古麗校長先生の話によると、その小学校の生徒人数は518名、この地域では最も大きい小学校で、教員は40人あまり、半数以上はウイグル族の出身である。「多民族の生徒が集まっている授業はどの言語を使っていますか」と聞くと、尼亞孜古麗校長先生は「低学年の生徒はある程度の漢語を話せるが、家庭では各自の民族語しか使わないので、最初、民族によってクラスを分け、民族語で授業をしながら、漢語も教えているが、三年生から徐々に漢語の授業を増やし、授業も二言語、民族語と漢語を使うようにしている」ということであった。また、二言語教育の実施のため、教員陣も紹介してくれた。「先生たちは殆んどウイグル族の出身で、一部分が民族学院や沿海地域の大学を卒業したので、漢語が大変上手にできて、五・六年生の授業はこれらの先生にたよっていますが、やはり足りませんね。低学年の授業は地域学校出身の先生が担当しているけど、漢語がうまくできないため、生徒に二言語の教育は大変苦労している」とため息をした。

話している間に、授業中間の休憩時間になったが、十数名の生徒が校長室に入ってきた。「建校



写真1 小学校の外観



写真2 生徒たちと一緒に



写真3 教科書



写真4 夏宿題をやっている子供



写真5 親の商売を伝っている生徒

二十周年を祝う為、行事の手伝い生徒です」と尼亜孜古麗校長先生は言いながら、学徒たちにウイグル語で語り始めた。私のことを紹介した上で、生徒たちはきれいな標準語で挨拶してくれて、一枚の記念写真を撮った。

昼休みの時間（11：50～14：00まで）を利用して、ある回族生徒の家を訪れた。親子四人の家族で、父親は村の自動車の運転手、母親は農産業をやっている。お姉さんは九歳で小学校の三年生、大変しっかりしている子で、将来の夢は、大学を卒業して、教員になりたいそうだ。弟さんは七歳、まだ学校にいっていない。「今学費を捻出しているところですが、来年小学校に入れる予定だ」と母親が言った。授業料は三年生の場合、年間1,800元（日本円で25,200円に相当）だという。



写真6 母親と二人の子供



写真7 家事をしている三年生の生徒

「三州」は中国の辺境地に位置しており、経済・文化・教育などは非常に立ち遅れている。筆者は家庭訪問で生徒の親から現地の教育発展状況を聞いた。十年の「文化大革命」の動乱によって、教育の条件が悪く、校舎不足が深刻であった。八十年代までには、一部の学校は長年にわたって暗くて湿気の多い岩窟で授業をし、子供たちの成長に極めて悪い影響を及ぼした。また、「気象学校」と呼ばれている学校もあった。校舎がないために露天で授業を行い、雨天になると休講するしかないというわけである。長年補修しないため、危険な教室が絶えず増え、教具・機材等の授業用具がなく、ある科の授業開講ができない。また、校舎も、机も、適任な教員もいない、「三無」と呼ばれている「学校」も現れた。ある地域には、時計がないため、太陽で授業の時間を決める学校さえもあった。少数民族の教育の発展には大きな格差が見られた。

八十年代後半以来、「改革開放」と共に少数民族の教育水準もたえず向上している。政府は少数民族の教育が立ち遅れている状況を変えるため、一連の措置をとって、少数民族の教育事業発展を教育活動の重点とし、発展計画、資金投入、教師養成などの面で少数民族の教育を重点的、優先的に配慮、助成している。牧畜区の民族教育には、政府は多額の資金を投じて寄宿制学校をつくり、共に少数民族の貧困学生のために助學金を制定している。

一方、中央政府や国家教育委員会・国家民族事務委員会などの国家機関は少数民族教育を発展・強化させるため、一連の「方案」を出した。それは、少数民族行政機関の設立（1981年1月）・

「教育発展改革指導大綱」（1992年10月）から少数民族の宗教と教育（1982年8月）・言語文字問題（1991年4月）・少数民族成人教育まで、また、具体的少数民族小・中教育の課程（1982年）・民族学院の設置（1983年～1993年）から少数民族学生の受験・就職（1982～1992年）・教員の養成研修（1985年～1995年）・少数民族教育経費（1985年～1992年）まで指示し、民族地域に着実に実施するように要求したのである^(注3)。これらの政策・経費などによって少数民族の教育は著しく向上した。今までほぼ二十年あまりの発展歳月を経て、「三州」の民族教育も大きな成果を果たした。昔の「気象学校」・「三無」などのような学校から立派な地方小学校ができ、先述した喀什郊外の小学校がちょうど建校二十周年だったということは、つまり、1985年、少数民族教育発展途中に創立した学校である。この新疆の辺境地一隅にある小学校は、中国全土の学校の中で、滄海中一滴の水のような存在であるが、筆者の心の中では夜光の玉のように中国西部辺境できらきら輝いていて、大きな存在である。

八十年代後、「三州」の少数民族教育は猛スピードで発展したが、その一方では、急速な漢語教員の増加によって教員の素質や学歴、教学能力が低下している状況も出現している。例えば和田地区では、漢語教員137名の中で半数以上が漢語の発音・文法などが少ししかできない、あるいは読めるが話せない、また正しく書けない状況も出現している。教員の待遇不良や社会的地位の低下などの原因により、漢語の教員数も年々減少している。下表は1987年～2002年までの三州の漢語教員の統計人数である。

三州（喀什・和田・克孜勒蘇）の漢語教員人数表

地区	1987年			1990年			1995年			2002年		
	合計	漢語	比率%	合計	漢語	比率%	合計	漢語	比率%	合計	漢語	比率%
全区	4,738	523	11	7,493	334	4.45	10,043	293	2.91	12,874	310	2.4
喀什	930	81	8.7	1,505	92	6.1	1,838	32	1.74	2,519	37	1.46
和田	431	64	14.8	738	55	7.46	1,049	29	2.76	1,370	9	0.65
克孜勒蘇	230	5	2.2	364	5	1.37	505	3	0.59	712	5	0.7

上表は「三州」の漢語教員が、1987年の11%から、2002年には2.4%に、中でも和田地区は14.8%から0.65%に減ってしまったことを示している。

また、新疆地区の中・小学校専任教員学歴から見てみると、新疆地区の小・中学校の教員総数は22万1,616名であるが、大学院出身者は261名、大学卒業者は3万7,400名、専門師範学校出身者が11万2,466名である。ほかに高校卒業者が6万9,048名、それ以下の学歴人数は2,435名となっている。高校の教員を取り上げて見てみると、大学院卒業出身者120名、大学卒業1万3,939名、師範専門学校6,715名のほか、高校しか卒業していない教員は191名、それ以下の者が11名の合計202名となっている。担当の科目は政治・国語・数・理・化・生物・地理・歴史・外国語・情報技術・体育・音楽・美術・労働技術及び漢語など15の科目に及んでいる。教員の質低下の問題を解決するために、早く1985年に国家教育委員会は「西北少数民族教員養成・研修センター学生募集に関する通知」を頒

布した。「西北地域の教育事業を大いに発展させるため、できる限り迅速に多数の資格を持った中等学校教師を養成することが必要となってきた。研修センターは新疆・甘肅・青海・寧夏・陝西などの五つの省・自治区を学生募集対象地域とし、今年度の入試に参加した少数民族の受験生の中から成績順で募集する。西北地域の少数民族の教育が遅れ、受験生の水準が低いことを考慮して、新入生の採用基準を適度に下げて募集することができる。但し専攻する科目的成績は合格ラインに達していなければならない」と定めている。そのセンターでは新入生に対して、最初の1年間、少数民族予科クラスを設け、基礎知識と漢語の補習、基本技術の訓練を行い、予科学習期間を修了した後、大学本科での学習条件を満たしている者がセンターの本科各専攻に転入される。センターでの学生の待遇は、国家教育委員会により全員に奨学金を与えることになっている。

この「西北少数民族教員養成・研修センター」制度は1985年からスタートして、1988年まで毎年実施された。新疆に対する募集案内は以下のとくである。

研修センター募集案内

年	人 数	専 門 科 目
1985年	25	数学 10名 英語 15名
1986年	25	漢語・文学 15名 化学 10名
1987年	34	政治教育 12名 地理学 10名 学前教育 7名 音楽 5名
1988年	32	学前教育 32名

中華人民共和国国家教育委員会民族地区教育司『少数民族教育工作文件選編』
(1949年~1988年) 内蒙古教育出版社 1991年により作成

上表は、新疆ウイグル自治区の教員養成は幅広く及んでいることを示している。中では「学前教育」を担当する教員の養成数は1987年と88年に合わせて39人となり、多科目において最も多かった。そこから基礎教育と漢語を教えることに堪能な教員養成を重視していることが分かる。

しかし、この民族教員養成・研修センターの募集人員は多くはなかった。新疆の教育発展を促進するとは言い難い。1995年、国家教育委員会は「第2回西北少数民族教員養成・研修センター会議紀要の配布に関する通知」を頒布した。その中で、「センターは設立期間が短く、少数民族教育の経験が不十分であるので協力関係を強化することはセンターの運営にとって特に重要である。今後、センターは徐々に西北地区少数民族師範教育のネットワークを形成して、少数民族教育の改革を促していく」と、地方の師範教育を強調したのである。

2000年に、主に西北地域の新疆・甘肅・青海及びチベット・寧夏・雲南・貴州など貧困省区において、173名の小学校校長、140名の中学校校長に対するアンケート調査が行われた。教育を中心とした学校の経営から、授業科目、学校教育と社会教育など、さまざまな問題に及んでいる。アンケートの中では、学校運営のため「資金のほかに、最も解決に必要な問題」という項目がある。

学校改革の中で、最も解決するべき問題調査表

項目	小学校校長		中学校校長	
	人 数	比 率 %	人 数	比 率 %
優秀な教員の増加	39	22.5	38	27.1
教員の教学質の向上	92	53.2	66	47.1
図書資料の不足	6	3.5	2	1.4
コンピュータ授業の開講	14	8.1	8	5.7
その他	0	0	2	1.4
答卷空白	10	5.8	8	5.7

王秀雲ら『西部基礎教育現状と発展研究』民族出版社 2001年により作成

アンケート結果では、教員の質を高めることが最も緊急なことが分かった。その次が優秀な教員の増加である。一方、「三州」地域調査の結果からみれば、教育現場における少数民族の教員が極めて不足、また、質が低いことは、新疆ウイグル地域の教育発展の大きな問題の一つである。

漢語教員の不足問題を解決するため、「三州」の師範学校はウイグル語専科、北京・天津・南京・唐山・濟南等地区から漢族の学生を募集して、卒業後、「三州」の各小・中学校に漢語の授業を担当させる。1984年、漢語教員は3,270名に達し、1982年より1.15倍に増加した^(注4)。しかし、民族小・中学校の増設、漢語授業の増加により、特に、新疆ウイグル自治区人民政府は、1981年から漢語が高等学校・大学の入試科目として課せられ、その配点比率を年々上げていくことにつれて、漢語は民族小・中学校の重点科目となった。「三州」は小学校の漢語教員を養成するため、1985年から、漢語教員特訓クラスをつくって、800名あまりの中学校卒業生を募集して漢語の訓練をさせ、修了後小学校に配属するという地方養成方法で、漢語教員の不足状態を緩和した。最近、目立つことは中学校の漢語教員を養成するため、ウイグル族の教員を教育学院大学にいかせ、漢語の訓練をさせることである^(注5)。

筆者は新疆ウイグルにおける教員の養成と在職教員の再訓練を実施している新疆教育学院大学を訪れた。

二. 少数民族教員の育成

新疆教育学院大学は自治区の中心、ウルムチに位置している。1978年に国家教育部により設立され、その前身はウルムチ第一師範学校（1906年創立）である。学校の宗旨は「小・中学校の教員を再訓練し、教育理論の水準及び科学的研究における指導能力を高める」ことである。「新疆ウイグル自治区は十二万の小・中教員、50%の小学校教員、80%の中学校教員の教育水準が低く、また二万人余りの教育管理公務員の質を高める必要がある」と大学教務課の責任者は語ってくれた。学校の主旨は「団結・求実・敬業・奉獻」となっており、いわゆる教員としての基準・義務をしめしている。今、在校生は2千人を超え、その中で少数民族の学生は半数ぐらいを占めている。学科は教育・中

文・政史・語言・数学・物理・生化・体育・芸術など9つとなっており、教職員は716人、少数民族出身の教員は43%を占めている^(注6)。

筆者は先ず、教育予科を訪れた。この学科の学生数が最も多く、「学校教育」「教育管理」「学前教育」の三つの専攻科目となっている。1980年の開学以来、教育行政管理者、幼児教員、小・中学校教員など4,148名を養成し、940名の校長がそこで訓練を受けた。また二年の短大卒業生については、教育管理専門科681名（少数民族343名）、幼児教育科338名であった。本科卒業生は教育行政管理専門が922名（民族150名）、教員は37名、そのうち少数民族出身者は18名である。

筆者は大学4年生の授業を見学させていただいた。同じ数学の授業であったが、ウイグル語クラスと漢語クラスに分けられている。

漢語クラスの張先生は河南省の出身で、二十数年この学校で教鞭を執った、教育経験豊富なベテランの先生である。張先生は週に15コマ（1コマは50分間）の授業を持ち、授業は全て標準語を使っている。

ウイグル族クラスの吐尼亞孜麗先生は漢語も堪能で、「やはり専門的な授業は、ウイグル族の学生には民族語でないと理解しにくいようだ」と語ってくれた。授業は殆んどウイグル語でされてい



写真8 新疆教育学院大学



写真9 教学楼



写真10 漢語クラスの授業風景



写真11 ウイグル語の授業風景



写真12 漢語授業の教科書



写真13 漢語の研修生たち



写真14 ウイグルの踊り



写真15 漢語の授業風景

課程表				
	星期一	星期二	星期三	星期四
周一	中	中	中	中
周二	中	中	中	中
周三	中	中	中	中
周四	中	中	中	中
周五				
周六				
周日				

写真16 時間割り表

るが、ときには、標準語も使っていた。

時間割表を見ると、授業科目名ではなく担当の先生の名前であった。漢語の授業はどうなっているか、とても興味を持って見学をした。その授業を担当しているのは若いウイグル族出身の扎帕尔古麗先生である。明るく表情豊かで、典型的なウイグル族女性であり、学生達の中で人気がある先生だそうだ。きれいな中国標準語の挨拶から始め、先ず授業の復習。四人の学生に黒板に漢字を書かせ、その訂正の時には、漢

字の書き順から発音までを丁寧に教え、間違えて書いた学生に再度書かせ、読ませていた。難しい単語の説明はウイグル語で解説した。授業は北京語言大学が編集した『実用漢語中級教科書』を使い、読み、暗誦させ、学生達も積極的に大きな声で朗讀して、50分間の授業はあっという間に終わり、とても楽しかった。授業後、教科書について、扎帕尔古麗先生は「最初使った教科書は六十年代新疆の漢語専門家が編集された『漢語教科書』だった。その教科書は新疆民族教育にとても相応



写真17 学生達と一緒に食事

しいものだったが、その後、1980年に出版された『基礎漢語』・『漢語多功能訓練』・『漢語語法』など多数の教科書が出版された。発音や文法など、みなそれぞれの特徴をもっているが、時代用語・会話を学生に勉強させるため、この北京語言大学の教科書を使うことになった」と言った。

昼休みに、ある教室に入った。みな食事は学校の食堂で済ませたそうだ。夏の昼休み時間が長く、午後の授業は2時40分から始まる。一人の女子学生が黒板に漢字を書く練習をしているところを見て、「お上手ですね、何年生ですか」と聞いたら、「四年生です」ときれいな漢語で返事してくれた。みんなとの話の間に、新疆の各地域からきて、中には元来教員だった方もいたことがわかった。「卒業後、どこで就職しますか」と聞くと、皆にこにこして、「故郷に戻ります」。元教員の方は「私と一緒に来たのは十数名いた。みな漢語の研修員として勉強をしている。もちろん元の学校に戻ります。だって、この四年間、毎月給料も元の職場からもらっているから」と言った。そして、一人の学生がウイグルの踊を踊ってくれた。中国では多数の少数民族が歌や踊が大好きで、特にウイグル族は有名である。

新疆教育学院大学は各専門の民族教員を養成すると共に、地域の漢語教員の研修も行っている。大学の教務処長の話によると、1990年から、116名の漢語研修生がそこで学習した。中には、短期生と長期生の二コースがある。短期生の場合、半年から二年まで、長期生は本科生と同様、四年学制である。しかし、歴史的、社会的条件と自然環境等多方面の原因によって、教員不足の問題は依然として厳しい状態である^(注7)。確かに、新疆の教育事情は着実に発展している。今日を1949年と比べてみれば、全自治区の小学校は1,335校から6,221校に、中学・高校は9校から1,932校に、中等専門学校は11校から105校に、一般大学は1校から23校にそれぞれ増え、大学の在学生数は400人から15万人に増え、50余年来一般大学の学生を合わせて18万5,000人育成し、卒業させた^(注8)。

結び

調査の結果から、新疆少数民族で行われている「二言語教育」は義務教育の最初の数年間、ウイグル族の母語と漢族の二言語を学校における授業その他の教育活動の媒介とする教育方式を指す、とみることができる。一方、新疆の民族教員の質は大分高くなつたが、やはり十分ではない。また、教員、主に漢民族の教員の中で転職する者が年々増え、無資格の教員の割合が大きくなり、教育のレベルが落ちていることも現状である。

少数民族の教育は、中国の教育全体の重要な構成部分の一つであり、民族工作の重要な内容の一つでもある。その教育を強化することは我々中国の直面した一つの重大かつ緊急な任務であることを痛感した。これから少数民族の教育は、当地の実態と需要に応じて、柔軟な形態をとり、教員の待遇、学校の規模効果を考慮すると同時に、当地域の自然環境と各民族の生産と生活の特徴にも配慮して、少数民族の教育を独自な形で整えていくべきだと考えられる。

民族の教育は「調査、改革、整頓、向上」の方針に則って前進したことを強く感じたが、民族教育の重視、教員の養成、義務教育の徹底的な実施の必要性と、また、二言語教育の実施は少数民族

文化の伝達・継承・発展を目指した民族自らの教育制度としての性格を持ち合わせるという二重性を持った教育の特徴は、少数民族教育のあらゆる問題の根源ともなっていると思う。

注

1. 国家民委弁公庁・国家民委政策研究室『国家民委文件選編』中国民航出版社 1996年 p.136～138
2. 余子俠『民族危機下の教育応対』華中師範大学出版社 2001年 p.88～91
3. 少数民族行政機関の設立（1981年1月）・教育発展改革指導大綱」（1992年10月）から少数民族の宗教と教育（1982年8月）・言語文字問題（1991年4月）まで、また、具体的少数民族小・中教育の課程から（1982年）
4. 王振本ら『新疆少数民族双語教学と研究』民族出版社 2001年 p.63～68
5. 王振本ら『新疆少数民族双語教学と研究』民族出版社 2001年 p.77～79
6. 『新疆教育学院二十年』新疆教育学院出版社 2000年 p.97～101
7. 郭澄『中国教育学院の国際考察と発展研究』新疆教育学院出版社 2000年 p.73～75
8. 王秀雲ら『西部基礎教育現状と発展研究』民族出版社 2001年 p.363～365